

附設逍遙歌

令和6年5月25日

作詞 大石 亀次郎先生

作曲 不詳

伝承 11回生有志



一、白き葡萄の花匂い

橄欖碧波に映ゆる時

あゝ南欧の春は来ぬ

あゝ南欧の常春よ

(橄欖はカンランと読みオリーブの意)

二、アネモネ咲けば胸躍り

薔薇落つれば愁いあり

我ウエルテルにあらずとも

紅の恋語らんや

(薔薇はソウビと読みバラの意)

三、ミルラン城頭月冴えて

緑青繁れる牢獄に

麗し乙女の面影を

ひたぶる抱きて我泣きぬ